

心の輪11R



『娘のふるさと』という資料を通して、
「ふるさと」について考えを深めました！



ふるさとは、自分が最も大切にできる場所だと思います。いくら他の町に馴染んでいたとしても、思いや大切にできる心がないと、ふるさととは言えないと思いました。

ふるさととは、自分の生まれ育った場所ではなく、自分が一番楽しめる所だと思った。

ふるさととは、自分が今、大切に思っている町のことだと思った。思い出がたくさんあった方が心に残るので、ふるさとだと思えるのかなとも思った。

ふるさとは、その人が生まれ育ち、見慣れたような町だと思う。理由は、長くいるだけでは、そこがはっきりとふるさとだと言える場所じゃないと思ったから。

ふるさとは、自分が生まれ、育ててくれ、楽しい思い出や友達などがいる所。色々なことを学ぶことができる所。過ごしやすい所。

ふるさととは、その人がこれからの時間とこれまでの時間を過ごす（過ごした）場所だと思う。また、馴染み深いだけでなく、これから馴染んでいく所だと思う。

ふるさとは、自分自身にとって思い出がたくさんあって楽しい所。楽しかった所。「ここにいて良かった」と思えるような所がふるさとと言えると思う。

『ふるさと』というのは、『自分の生まれ育った町』というものだけでなく、たくさんの思い出が詰まっていて、本当に好きで、「ここがふるさとで良かった」と思える町が『ふるさと』というのだと思う。



私のふるさと

毎日暮らしていると、そこにあるものが当たり前のように感じ、地域の良さを実感することは難しい。しかし、改めて見つめ直してみると、自然、産業、伝統や文化、街並みやそこに暮らす人の思いなど、地域にはたくさんの魅力がある。

文部科学省資料
『私たちの道徳』P.201 より引用

message

メッセージ

帰る度、「変わってないねえ。」とうそぶいて、
変わっていたら、淋しくせに。

31歳・女性

早く出ていきたい。一人で生きて、そして、
いつか必ず帰ってくるんだ。

17歳・女性

何もない そう思ってた あの場所に
全てがあったと 知る今日この頃

17歳・男性

ふる里よ、ぼくは、君のことは、わからないけど、
君は、ぼくのことわかってるみたい。

13歳・男性

このままでいい このままがいい それだけでいい
私のふるさと

49歳・女性